

項目	詳細
訪問（視察）場所	浦項迎日湾新港（浦項国際コンテナターミナル）
訪問日時	平成 24 年 7 月 10 日（火） 9:00～10:00
概要	<p>■概要説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大型船舶も出入り可能なほど、水深が深い自然条件や入り江など自然の地形を活かして港湾を整備。海底の地盤も良く、条件として良好な港である。 ・規模は 16 バースで、2020 年の整備完了を目指している。このうち、岸壁の長さが 1,000m、3 万t級コンテナ船 4 隻が同時に接岸できる規模のコンテナ埠頭がある。2010 年は 50,000TEUを達成した。 ・浦項迎日新港湾株式会社は、民間建設会社と、慶尚北道、浦項市が共同事業体で設立した会社。民間資本で迎日湾港コンテナ埠頭を建設し、竣工時点で所有権を国家に移譲し、50 年間、管理運営権を保有する BT0方式（Build（建設）Transfer（譲渡）-Operation（運営））。 ・コンテナターミナルは、ロシア、中国、北朝鮮、日本など、環東海（日本海）経済圏の拠点として物流を進めるために港湾を整備している。 ・現在、ロシアとの主な取引は、自動車。一旦、ヤード保管庫で新車を分解（ノックダウン）し、コンテナ 1 つに 3 台分入れ、輸送している。 ・物流促進を行うため、鉄道網、高規格道路の整備を進めているほか、後背地に産業団地をいくつか造成している。産業団地の主なものは造船、燃料電池、部品素材産業団地関連。 ・釜山港と近接しているが、追加寄港、フィーダー港としてのネットワークにより、大邱・慶北地域の物流を促進することが可能。 ・現在の港湾の最大利用企業はポスコである。立地条件が良く会社から海路により 30 分内で接岸できるのがメリット。 ・RFID（自動認識技術 Radio Frequency Identification）などの最先端の港湾運営システムを構築して、車両のゲート通過から船舶に船積みするまでの各段階別・荷役プロセスを、中央で遠隔モニタリングを行っている。これにより、貨物追跡システム、港湾運営情報システム、物流情報システム、コンテナターミナル運営情報システム、物流処理自動化システムなどが可能となっている。

概要	<p>■質疑応答</p> <p>Q：国内には、近接地に釜山港という国際コンテナターミナルがあるが、浦項新港はどのような着眼点でいるのか。</p> <p>A：浦項新港の最大メリットは、ロシアに一番近いこと。ロシア以外にも、中国、日本、アジア等の諸外国との物流を行っているが、韓国内でロシアに一番近い港としてポートセールスを行っている。</p> <p>Q：国内のどの地域から集荷しているのか。</p> <p>A：国内の地域では、いろいろその港のメリット、デメリットがある。国内は狭いので、企業が輸出入する地域を選択することによって、浦項新港がよいと思う企業があれば、必ず集荷がある。</p> <p>■港湾内を視察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヤード保管庫で新車を分解し、コンテナに詰めている現状を目視により確認した。 ・港湾管理会社の車両案内があり、このような作業現場を間近で見ることができた。いろいろな場所で視察を行っているがNGが多く、滅多にない機会に遭遇した。ポートセールス等の機会で現地情報を正確に伝えることができる機会を得た。 ・ターミナルは建設時に1度視察を行っていたが、今回訪問して改めてターミナルや周辺の道路状況等の整備が進んで、荷物の取扱量も増加している事実を確認することができた。 <p>■考察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンテナターミナルは2020年に整備完了となること、後背地の産業団地周辺には、間もなく新幹線も開通する予定があるなど、産業団地や交通体系の整備が更に進むことから、時期を捉えて港湾視察を行う必要がある。 ・直江津港と浦項迎日湾新港は釜山港を通じて航路がつながっていることから、港湾関係者と意見交換をすることができたのは、メリットがある。浦項市周辺へ進出している上越市の企業はないものの、以前に上越市内企業が浦項市から鋼材を輸入している実績があることから、鉄鋼のまちとして盛んな浦項市の現状を引き続き情報入手することにより、地元企業へ還元する必要がある。
----	---